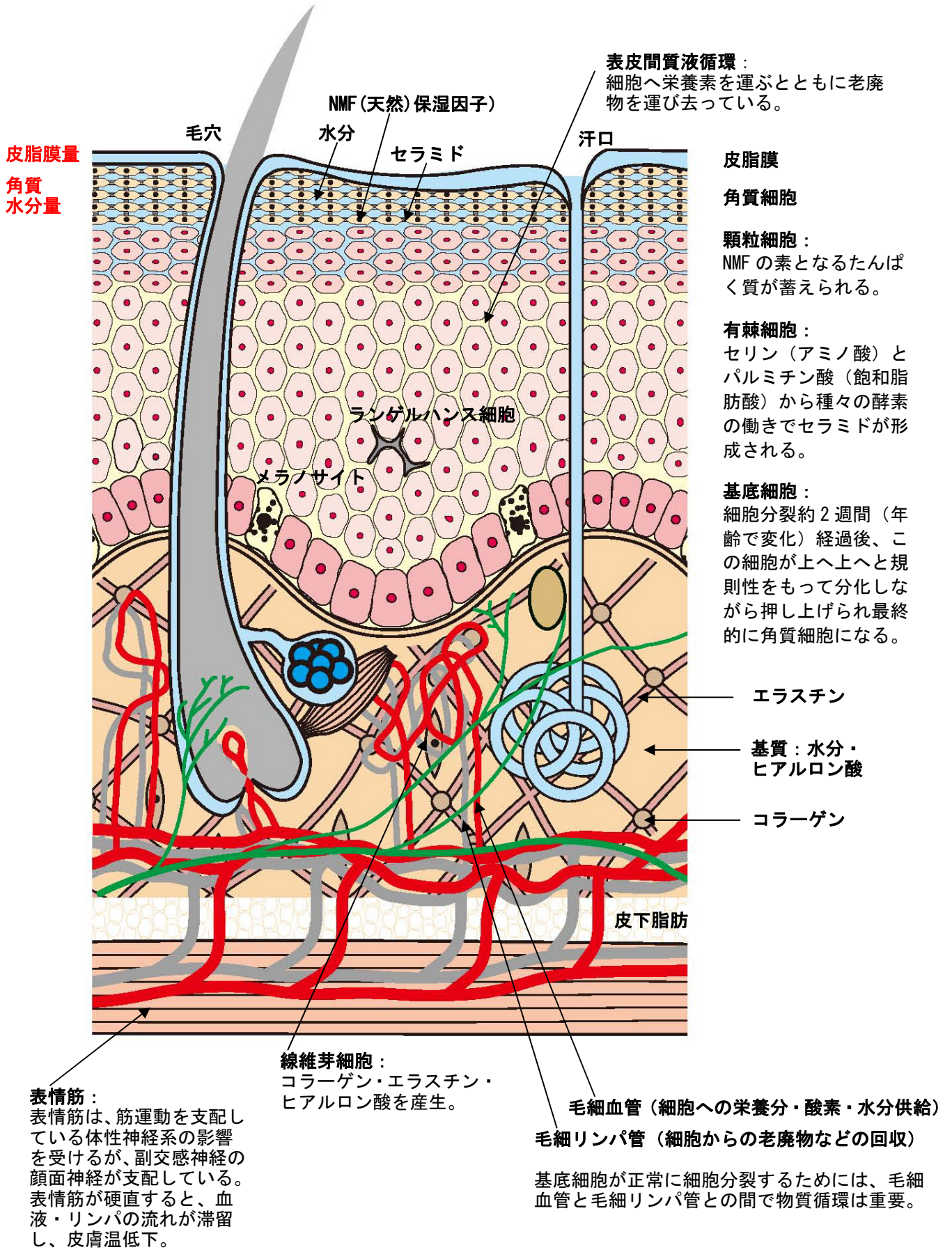
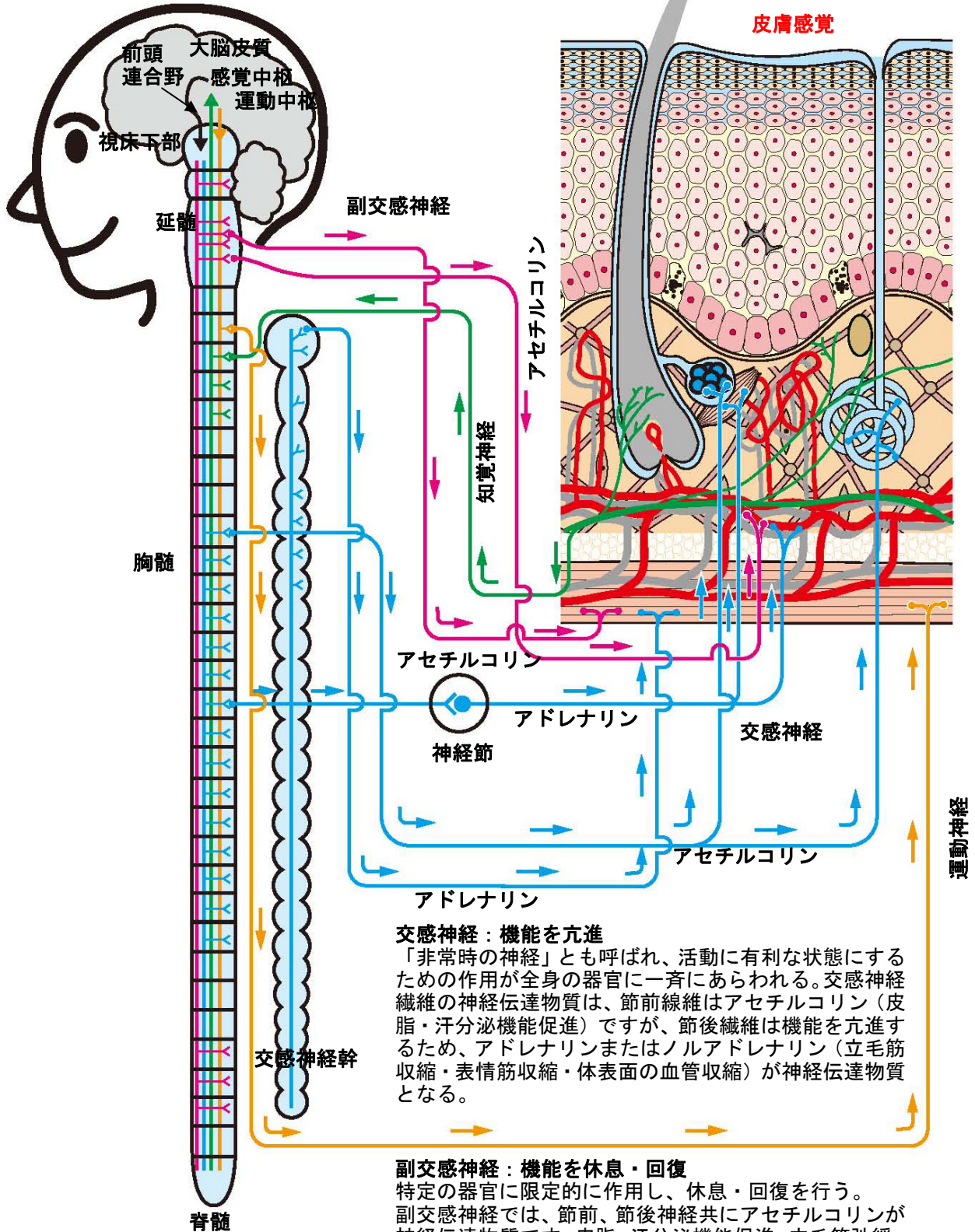


皮膚バリア=肌のうるおい力（皮脂膜量と角質水分量）



皮膚バリア=肌のうるおい力ができる仕組み

大脳皮質に伝わった刺激を間脳視床下部（本能）が判断し前頭連合野（思考）がゴーサインを出す。このとき、視床下部の判断が優先するか、あるいはゴーサインが優先するか、優先した指令が自律神経系を通して器官に作用する。



交感神経：機能を亢進

「非常時の神経」とも呼ばれ、活動に有利な状態にするための作用が全身の器官に一斉にあらわれる。交感神経繊維の神経伝達物質は、節前線維はアセチルコリン（皮脂・汗分泌機能促進）ですが、節後繊維は機能を亢進するため、アドレナリンまたはノルアドレナリン（立毛筋収縮・表情筋収縮・体表面の血管収縮）が神経伝達物質となる。

副交感神経：機能を休息・回復

特定の器官に限定的に作用し、休息・回復を行う。副交感神経では、節前、節後神経共にアセチルコリンが神経伝達物質です。皮脂・汗分泌機能促進・立毛筋弛緩・表情筋弛緩・体表面の血管拡張など。

※アセチルコリンレセプターは全ての器官に存在する。